

# 日本版BTV連携協議会 第2回総会・シンポジウム in ニセコ町 パネルディスカッション





# ニセコ町の目指す観光 環境、景観、来訪者、産業、住民



# ニセコエリア(ニセコ観光圏)の中のニセコ町 (ニセコ町の特徴)

日本海

ニセコアンヌプリ

蘭越町

人口  
4,448人  
(うち外国人 103人)  
R7.04現在

宿泊施設  
町内全体: 15  
収容人数: 409

キーワード  
農業 (らんこし米)  
温泉・離れ・奥ニセコ

ニセコ町

人口  
5,071人  
(うち外国人 599人)  
R7.04現在

宿泊施設  
ビレッジ: 24  
アンヌプリ、昆布、モイワ: 43  
その他: 13  
収容人数: 5,091

キーワード  
「農業と観光のまち」  
環境  
地産地消  
温泉  
アクティビティ  
ローカルさ

俱知安町

人口  
15,432人  
(うち外国人 852人)  
R7.04現在

宿泊施設  
ヒラフ: 530  
花園: 91  
駅前等: 301  
収容人数: 15,350

キーワード  
高級スキーリゾート  
ラグジュアリー

ニセコ町・俱知安町・蘭越町にて  
「ニセコ観光圏」を形成

尻別川

ニセコエリア(ニセコ観光圏)は人口1.5万人の俱知安町、人口5,000人のニセコ町、4,500人の蘭越町からなる。ニセコ町は俱知安町の1/3規模の、環境と景観を大事にするローカルさが魅力のスキーリゾート。

人口：5,578人(うち外国人住民1,087人※約40カ国)

世帯：3,290世帯 ※2025年1月末

面積：197.13km<sup>2</sup>

(田畠28.35km<sup>2</sup>、宅地2.38km<sup>2</sup>、山林原野132km<sup>2</sup>他)

予算：約100億円 (一般会計当初予算規模)

職員：約100名

「ニセコ」はアイヌ語で「深山にあって川岸にかぶさるように出ている崖」のこと

昭和39年に町名変更 (旧名称：狩太町)

平成13年に全国初の自治基本条例「まちづくり基本条例」施行

※「ニセコ」は、国際リゾート地としてニセコ町を含む広域エリアを指す言葉として広く使われています。

「ニセコ町」と「ニセコ」はTV報道などでも混合して使用されており、

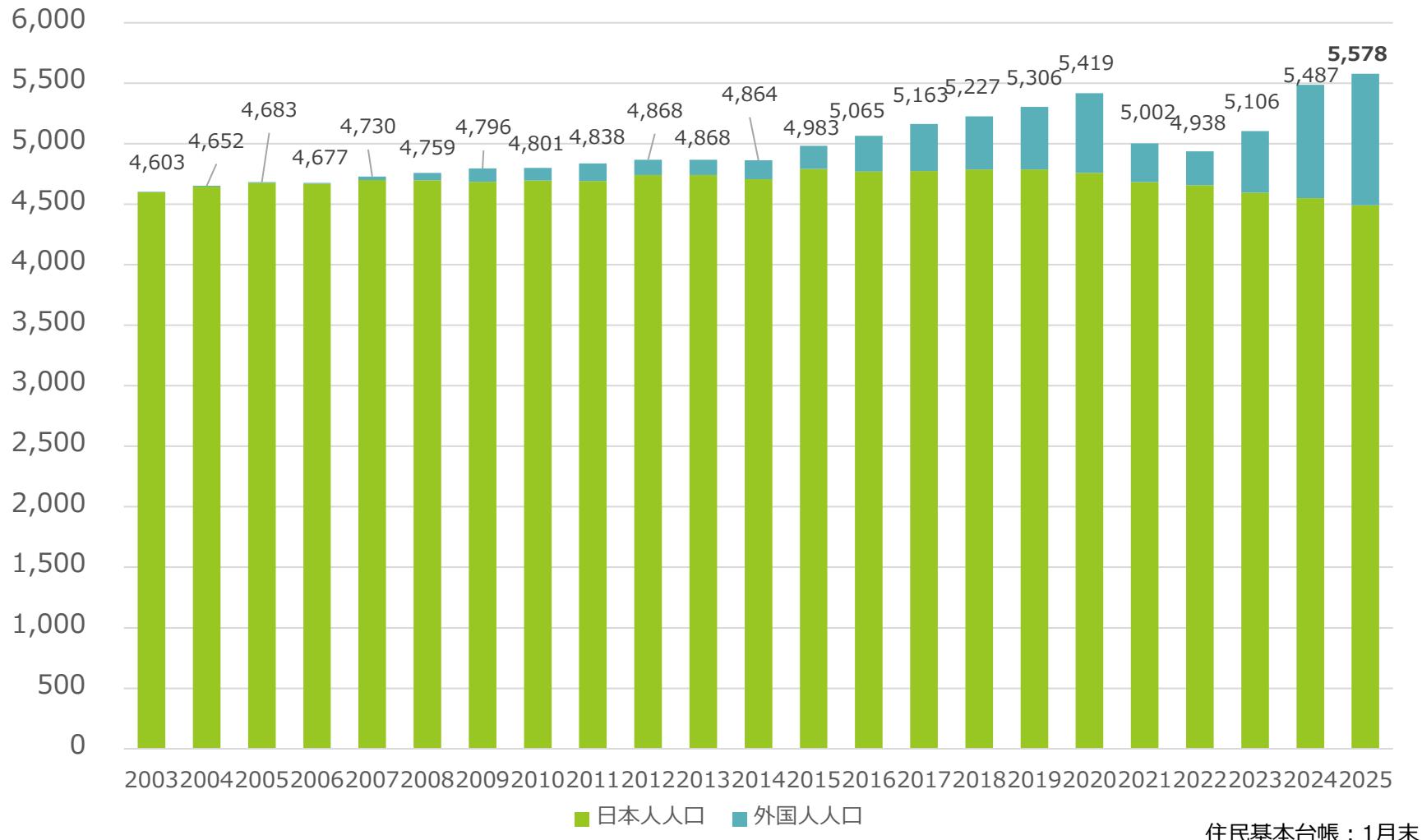
よく「活発な外資による開発」で取り上げられるエリアは、ほとんどが隣町の倶知安町です。

また、ニセコ町・倶知安町・蘭越町の3町で形成している「ニセコ観光圏」という括りもあり、

分かりにくく恐縮ですが、お間違えのないようにご注意ください。

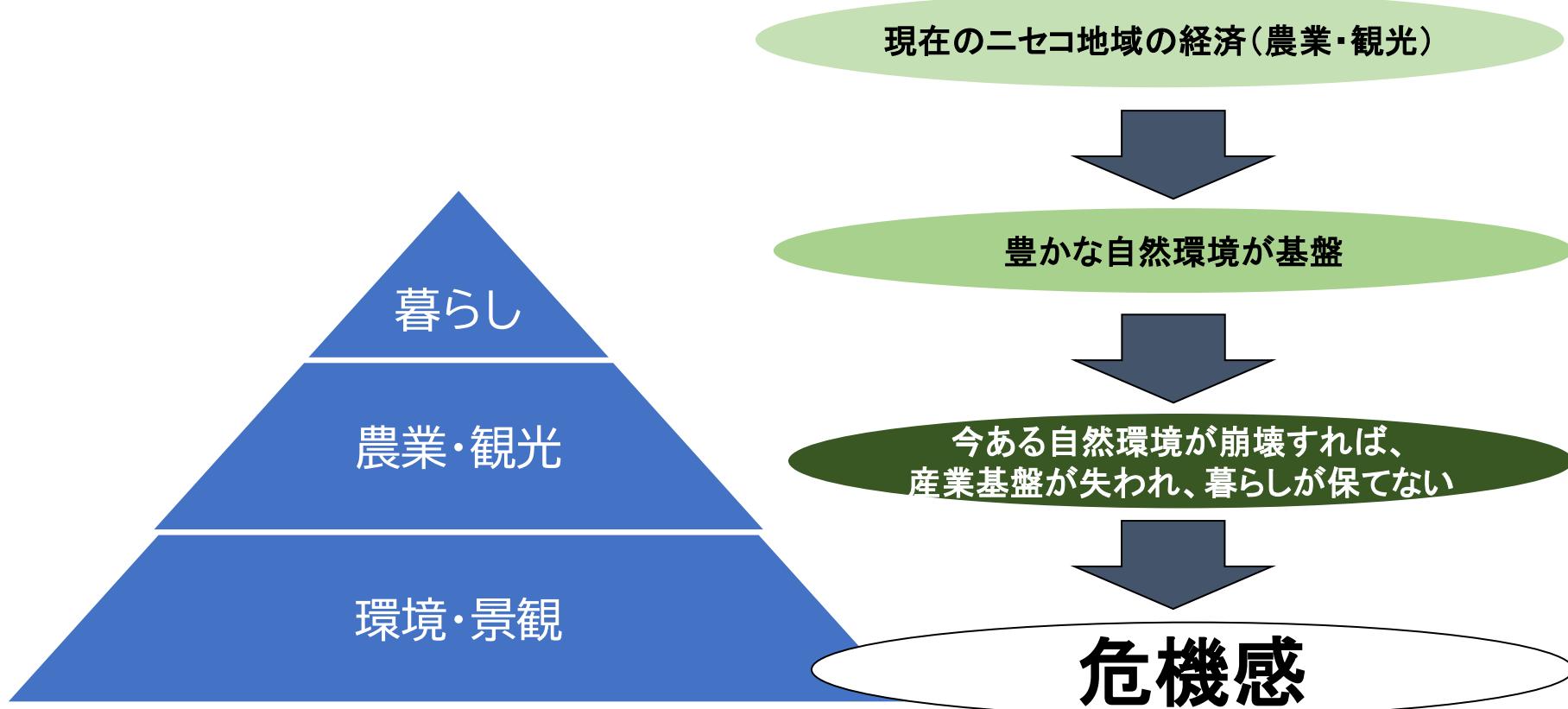
# ニセコ町の人口推移

- 人口が少しづつ増えている（但し、コロナ禍による影響あり）
- 人口減少社会の日本の中でも、人口5,000人程度の小さな町では珍しい
- 人口ビジョンにおいては、2030年の5,600人をピークに2060年でも4,600人を維持



## 【ニセコ町まちづくりの基本的な考え方】

- 環境と景観が農業と観光を支える
- 環境と景観、そして人々の暮らしづくりが観光地の信頼に



# ニセコ町の特徴 3つの株式会社

- 持続可能な観光に取組む「株式会社ニセコリゾート観光協会」、ニセコの森を守る・価値を創造する林業を目指す「株式会社ニセコ雪森考舎」、ニセコ町が世界に誇る持続可能なまちとして、価値を高めていく「株式会社ニセコまち」の、3つの株式会社が活動。



自然と接するをコンセプトに、ニセコエリアで採れる草木を素材に様々な価値を提案。



高断熱・高気密住宅の開発で少ないエネルギーで快適な住環境を提供。  
住人とともにニセコ町らしい生活をコーディネート。



ニセコ町らしさにこだわり、地域事業者と連携して体験・滞在・周遊魅力を生み出す。

パウダースノーでちょっと有名な、人口5,000人の北海道のちいさな町です。

人口の10%が海外からの移住者で、一緒にまちを盛り上げています。

きつつきさんやしまえながさんも住んでいます。

ルーツにはちょっと九州・鹿児島県が関係しています。

農業と観光でがんばっている町です。

地元の野菜は新鮮・安心・低価格です。

わたしたちが愛するのは地元の居酒屋・レストランです。

町立のニセコ高校に全国から高校生が集まります。

インターナショナルスクールが2つあります。

全国から地域おこし協力隊が移住して活躍しています。



ニセコ町公式ゆるキャラ ニツキー  
(町鳥「あかげら」モチーフ)

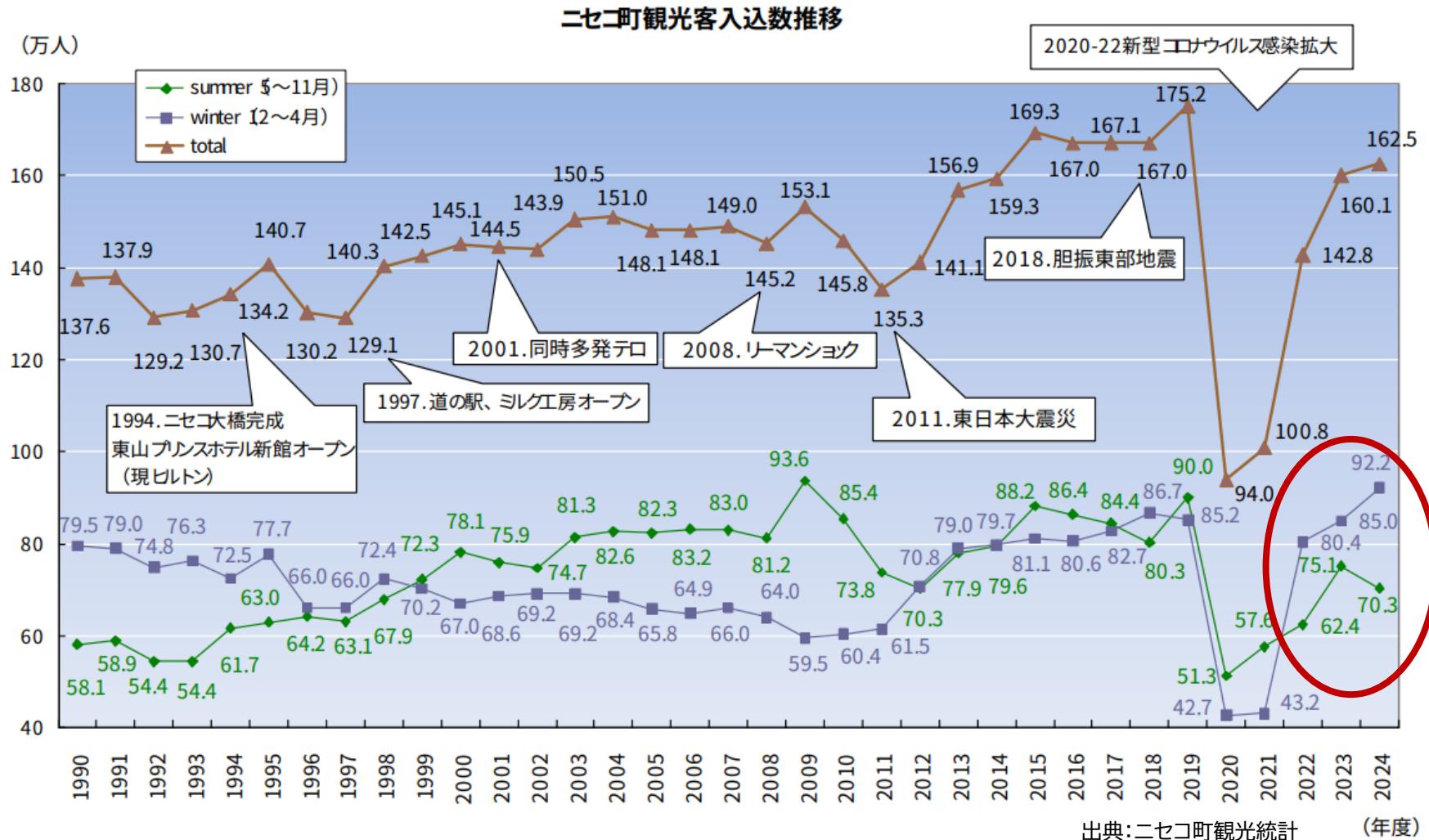
北海道にしか生息していない  
雪の妖精 しまえながさん



ニセコ町らしさ:美しい景観・森・水、環境への配慮、地元・移住者が取り組む事業(農業、林業、製造業、観光業)、学校教育  
▶「ニセコ町の未来をつくる方々」と連携した観光地づくり(観光協会は体験・滞在・周遊魅力の創出・発信)

# ニセコ町の観光入り込み客数

■冬季は賑わうが、夏季シーズン(5~11月)は大幅減少。



## 持続可能な観光地域づくりに向けた取り組み

将来像

町民や観光客から信頼される、持続的な国際リゾート

喫緊の課題

ネガティブイメージ・夏の観光客の減少

## 自然・文化環境

- 環境・景観の継承・活用  
(景観条例、ニセコルール等)
- 自然・歴史遺産の継承・活用(例:ニセコ産木材  
文字モニュメント)
- フードロス削減、観光客へのマナー啓発



ニセコ産木材を使った文字モニュメント

## 地域経済

- 夏のニセコ町らしい夏の体験・滞在・周遊魅力創出と発信(電動トウクトウク等)
- ニセコ町らしい教育旅行、MICE受入促進(地元ワイナリーと地産地消のレストラン等)
- 公共交通の確保(夏・冬の周遊バスなど)



地元ワイナリーと地産地消のレストラン

## マネジメント

- 町内小中高校との連携(ニセコ高校と観光協会の連携、中学校・小学校の総合教育協力)
- 町内事業者への情報発信、意見交換会
- 住民の地域の魅力・取り組みの体験



ダチョウ牧場での食の安全・安心教室



ニセコ町への視察研修に合わせて、町内ビンヤード（ブドウ畠）で屋外レストランを実施。有機スパークリングワインと地元色の魅力をPR。

## ニセコワインツーリズムに挑戦




ニセコ高校が地域と連携し、持続可能な観光を軸にした教育が国際的な評価をいただきました。

ニセコ高校では、生徒が主体的に地域の魅力を学び、観光ツアーを企画・商品化することで、郷土愛と地域貢献への意欲を育み、次世代を担う人材を育成していることが評価されました。

## ニセコ高校がTOP100ストーリーズ選出



ニセコ高校×國學院大學観光まちづくり学部

## 電動トウクトウクレンタルを試行



ニセコ町の夏をさわやかに、楽しく巡る、電動トウクトウクレンタルを試行。

約5か月間213台が稼働。  
初年度  
3時間3000円。



shutterstock.com - 2460785279

ニセコ町の将来の自然環境を守るべく、植樹活動や木育活動を行うNIS-ECO(ニスエコ)プロジェクト。

町外からこられる生徒さんにもニセコの森づくりプロジェクトへ携わっていただきます。

## ニセコの森再生プロジェクトを修学旅行生も体験

